

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	共創の音楽で大槌の子ども達に生きる力を
資金分配団体名:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	一般社団法人エル・システムジャパン
実施時期:	2020年12月～2022年1月
事業対象地域:	岩手県大槌
事業対象者:	障害や不登校など様々な困難のある大槌町の子どもとその保護者。子どもセンターなどの放課後過ごす場所に居場所を見いだせない子ども。大槌弦楽器教室に通う子どもとその保護者。

Version 3.2

日付: 2022年2月14日

I. 事業概要

事業実施概要	音楽によって地域復興のために地元で活動する槌音と、震災直後から子ども支援として音楽教育事業を展開しているエル・システムジャパンとの連携で、地元の障害児向けデイサービス事業に通う不登校や障害のある子どもに対し、また、放課後の子どもの居場所として音楽鑑賞教室や楽器の体験教室を行った。デイサービス事業に通う子どもたちは、静かに音楽を聴くことや楽器に触れるなどこれまで体験したことがないことが体験でき、運営側は場づくりに苦労したが、子どもたちにとって貴重な機会となった。鑑賞教室は計3回実施、のべ41人（ネット21人）が参加した。想定以上にコロナ感染が収束せず、大勢が集まったり、県外から講師を呼ぶことに苦労したが、ギターやベース、ドラムを地元講師によって少人数で体験する試みをしたところ、子どもたちが大変興味を示し、7人の子どもたちが常時参加するまでとなった。体験教室は32回実施、のべ125人（ネット33人）が参加した。コロナ禍で不登校や障害のある子に限らず、学校や課題活動を制限されていることに加え大人にもストレスがかかる中で、子どもたちが安心していられる居場所として今後も地元運営で継続していきたい。
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	ニーズ設定は適切だったと考える。首都圏と比較しても学外の様々な活動に参加できる機会が限られている上に、町内では障害があったり不登校の子どもを受け入れる活動はほとんどない。その様な子どもたちを対象としたため、今回の事業ではまず、音楽を通して皆と一緒に活動できることを実現し、音楽の楽しさを感じ、簡単な曲1曲でも子どもたちが弾けるようになり、夢中になれることを見つけてほしいと考えていた。しかし、新型コロナウイルス感染の収束が当初の想定より大幅に遅れ、また、まん延防止措置や緊急事態宣言に限らず、大槌町内の感染に対する危機感が想定以上に大きく、集まってしまう活動や、町外からの訪問が困難な状況があったことは、事業設計に対する課題である。しかしその中で、ギターやベース、ドラムを教えられる地元の人の協力を得て、また、オンラインツールを支援いただいたことでオンラインで首都圏の講師とつながり、事業実施を工夫することができた。楽器の購入が認められたことは特に、今後（事業終了後）も子どもたちへの活動を継続するための大きな資源として重要である。また、不登校や障害のある子どもたちに限らず、コロナ禍で学校活動や課外活動の制限や大人もストレスを抱える中で、不安定になり無気力になりがち子どもたちへ、居場所を提供し、夢中になって取り組める活動を整えられたことは、想定以上に子どもたちにとって大きな支えとなったと考える。
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	不登校	子どもたちが学校や家庭とも違う第3の居場所としてこのプログラムに積極的に参加し、満足している	・参加する子どもの数・弾けるようになっている曲の数・満足度	参加者30人（活動開始時0人）、1人1曲以上を弾ける状態、活動を楽しんでいる	・鑑賞教室への参加41人（ネット21人）、体験教室への参加125人（33人） ・弾けるようになっていく曲の数 1人平均2曲 ・活動の満足度：約90%（ヒアリングと観察結果による）またやりたいたいという子どもが圧倒的だった一方で、鑑賞教室については一部参加が難しい子供がいたため	不登校・障がいのある子どもにとって、大勢の中で一緒に活動するのは容易なことではないが、この活動をきっかけに少しずつこういう機会を増やしていける感触を得た。また、不登校・障害のある子にとどまらず、コロナ禍での子どもたちの不安定さや積極的に何かに取り組む姿勢が弱いことを大人が感じていたようだが、想像以上に子どもが積極的に参加し、友達を連れてくるほど夢中になっている。普段の様子も明るくなり、この事業を意味を想像以上に感じている。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	今回実施したプログラムが恒常的なものとして確立し、子どもたちの大切な居場所となり、自信や、やる気の源になっていること。弦楽器教室の子どもたちとの交流事業も、双方が主体的な参加（合奏や教えあい等）で成り立つものになっており、より子どもたちのつながりを強くするものになっている状態。
考察等	子どもたちの活動に参加する姿勢（実施が予定されていない日も実施をせがむなど）や、ヒアリングより、子どもたちの生活になくはならないものになっていることを感じる。簡単な曲が1曲でも弾ければよいと考えていたが、難しい曲も必死に練習している姿は、地域の大人も驚いている。友達もつれてきて、新しい子どもに教える姿も見られ、子どもたちの大切な居場所となり、自信ややる気の源になっていることは十分確認できた。

V. 活動

活動	進捗	概要
週に1回、指導者を招き、楽器体験・練習会・鑑賞教室を開催する	ほぼ計画通り	コロナ感染の拡大と、実施地域での想像以上の警戒感により、約半年は思うように活動ができなかったが、オンラインによる指導による工夫や、子どもたちの積極的な参加によって、ほぼ計画通りに実施ができた上に、今後の継続にもつながることが期待されている。今後は自己資金で継続。
大槌弦楽器教室の子どもたちのコンサートに参加し、交流会を実施する	計画通り	事業延長が認められたことで、実施が実現した。弦楽器教室の子どもだけでなく、合唱団など町内で活動するほかの子どもたちとも共演し、これも今後の継続に期待できる。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	子どもたちの無気力感、集中力の低下など、障害がなくても不登校でなくても、町内では子どもたちに対して心配の声が聞こえていた。さらに、震災を直接経験していても、生まれる直前に震災により親を亡くし、ひとり親で育てられている子どもも少なくなく、その子どもたちの言動が心配されていた。そのためこの事業では、まずは子どもたちに経験をさせることを目的としていたが、子どもたちが想像以上にやる気と興味を見せ大人を驚かせた。子どもたちが夢中になれることを見つけ、仲間を誘い、一緒に技術を磨き、曲が弾けるようになることで自信をつけていく。そしてそれを見た、聞いた大人も子どもたちに勇気をもたらしている姿は、想定上の成果である。
---------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	震災から10年を過ぎたところでの新型コロナウイルス感染の長期化は、想像以上に子どもたちに大きな影響を与えている。しかし今回参加した子供たちの姿を見て、どんな環境下でも子どもたちが自信を持ち希望をもって生きていくことができる環境を整えることの重要性を再認識した。今回の事業により蓄積できたノウハウや備品によって、今後もこの活動を継続し、子どもたちのための環境を整えたい。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
障害や不登校等の子どもにリーチする	障害や不登校等の子どもを受け入れる町で唯一の学童保育施設である「ぼこあぼこ」と連携を図り、町内の生きづらさを抱えた子どもたちの様子を情報共有し、可能な限り、音楽鑑賞会や楽器体験教室を実施した。高齢者のデイサービスと併設しているため、コロナ禍で実施は容易ではなかったが、子どもたちに機会を与えることができた。今後も引き続き実施していきたいと思う。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	5,872,800	5,073,630	86.4%
	管理的経費	1,136,079	1,105,046	97.3%
合計		7,008,879	6,178,676	88.2%
補足説明		事業期間前半は、新型コロナウイルス感染拡大により、外部から講師が行くことや子どもたちを集めることが困難となり、後半にはできる限り実施したが、最終的に計画通り予算を活用することができなかった。活動の難しさは想定していたが、想定以上に長引いてしまった。		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	交流演奏会のチラシ
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	この機に整備することができた
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	現在団体のwebサイトを改訂中のため、一部公開されていない部分があるが、改訂後には公開する予定
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	新しく整備したもの以外には変更はなし
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	規定通り実施されている
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	規定通り実施されている
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	規定通り実施されている
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	今回新たに設置した
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	今回新たに検討した
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	今回新たに整備した